

第6章 計画の目標

6.1 目標

目標1 周辺地域の公共交通の維持・確保【課題1、4、5、6】

周辺地域では、地域ごとの特性にあわせて定路線迂回型等を含む柔軟な公共交通を展開し、周辺地域と新発田市街地を結ぶ市民の生活の足を維持・確保します。

目標2 まちなか移動を支える公共交通の充実【課題3】

新発田市街地では、市街地循環（あやめ）バスの充実により、まちなかの移動利便性を向上させ、活性化につなげます。

住宅地や商業地などの開発によるまちの変化に対応する公共交通網を構築します。

目標3 地域で支える公共交通の構築【課題7】

利用者の確保に向け、地域住民の主体性を育成し、地域とともにつくる環境づくりを進めます。

「地域で地域の公共交通を守る」意識を醸成するため、公共交通に関する情報発信を強化します。

目標4 持続可能な公共交通網の構築【課題2、4、8、9】

社会の変化や移動ニーズに応じた運行体系の見直しにより、持続可能な公共交通網を構築します。

将来に向けた公共交通の基盤整備を目指し、必要に応じて新技術の導入や地域の輸送資源の総動員について検討します。

6.2 評価指標

上記の目標について、7つの評価指標を設定します。

表 評価指標

評価指標	関連目標
①営業路線（大形線）の利用者数・収支率・本市の財政負担額	目標1,4
②市街地循環（あやめ）バスの年間利用者数	目標2
③市委託路線の年間利用者数	目標1
④市委託路線の財政負担額	目標4
⑤市委託路線の収支率	目標4
⑥公共交通空白地域の解消率	目標1
⑦数値目標設定の路線数	目標3

評価指標① 営業路線（大形線）の利用者数・収支率・本市の財政負担額	
関連目標	目標1 周辺地域の公共交通の維持・確保 目標4 持続可能な公共交通網の構築
現況値（R4）	利用者数 : 314,000 人/年 収支率 : 77.5% 財政負担額 : 0 円/年
目標値（R10）	利用者数 : 361,000 人/年 収支率 : 77.5%以上 財政負担額 : 0 円/年
指標の算定方法	利用者数 : 大形線利用者数データを活用 収支率 : 経常収益÷経常費用×100 財政負担額 : 経常費用－経常収益－補助金 [R4 年度補助の内訳] ・国庫補助（地域間幹線系統）: 12,109,500 円
データ出典元	新発田市保有の実績
目標値設定の考え方	利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 30 年度の水 準まで回復させることを目標とします。 収支率は現状を下回らない目標とします。 財政負担額は、利用促進策や国庫補助金等を活用しながら、新発田 市の負担が発生しないことを目標とします。

評価指標② 市街地循環（あやめ）バスの年間利用者数	
関連目標	目標2 まちなか移動を支える公共交通の充実
現況値（R4）	67,068 人/年
目標値（R10）	78,000 人/年
指標の算定方法	市街地循環（あやめ）バス利用者数データを活用
データ出典元	新発田市保有の実績
目標値設定の考え方	新発田市まちづくり総合計画において、利用者数の目標値が示され ていますが、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 30 年度の水 準まで回復させることを目標とします。

第1章

はじめに

第2章

現状 地域および公共交通の

第3章

成計画の 新発田市地域公共交通網の

第4章

課題 公共交通の

第5章

基本的な方針

第6章

計画の目標

第7章

施策・事業 目標を達成するための交通

評価指標③ 市委託路線の年間利用者数	
関連目標	目標 1 周辺地域の公共交通の維持・確保
現況値 (R4)	90,355 人/年 ※市街地循環 (あやめ) バス除く
目標値 (R10)	H30 年度時点の現況値 (豊浦地区公共交通のみ R4 年度) である 110,557/年に加え、R5 年度から順次運行を開始する路線の利用者数 (運行開始から 2 年目の値) を上乘せし、前年度を下回らない目標とする。
指標の算定方法	H30 年度時点における利用者数 (豊浦地区公共交通のみ R4 年度) に加え、R5 年度以降、赤谷・加治川・紫雲寺・佐々木の各地区で運行開始する路線の利用者数を合算
データ出典元	事業者及び新発田市保有の乗降データ
目標値設定の考え方	新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 30 年度の水準まで回復させるとともに、令和 5 年度以降に新たに市委託となる路線についてはその路線の利用者数を上乘せし、前年度を下回らないことを目標とします。

評価指標④ 市委託路線の財政負担額	
関連目標	目標 4 持続可能な公共交通網の構築
現況値 (R4)	市街地循環 (あやめ) バス・コミュニティバス : 729 円/年・人 新発田版デマンド方式の路線 (松浦地区公共交通、豊浦地区公共交通) : 2,762 円/年・人
目標値 (R10)	市街地循環 (あやめ) バス・コミュニティバス : 729 円/年・人以下 新発田版デマンド方式の路線 (新規委託路線含む) : 2,000 円/年・人以下
指標の算定方法	(運行経費 (車両施設整備費含) - 総収入 (現金+回数券+定期券) - 補助金) ÷ 利用者数 [R4 年度補助の内訳] ・国庫補助 (地域内フィーダー系統) : 9,062,000 円 ・新潟県補助 : 4,231,000 円
データ出典元	事業者及び新発田市保有の実績
目標値設定の考え方	バス車両で運行する市街地循環 (あやめ) バス・コミュニティバスでは、現状より利用者の増加を目標としているため、利用者 1 人あたりの財政負担も現状の 729 円を下回る目標とします。ワゴン車両で運行する新発田版デマンド方式の路線については、国が適正值と示す利用者 1 人あたり 2,000 円を下回ることを目標とします。

評価指標⑤ 市委託路線の収支率	
関連目標	目標 4 持続可能な公共交通網の構築
現況値 (R4)	市街地循環 (あやめ) バス・コミュニティバス : 10.6% 新発田版デマンド方式の路線 (松浦地区公共交通、豊浦地区公共交通) : 6.8%
目標値 (R10)	市街地循環 (あやめ) バス・コミュニティバス : 10.6%以上 新発田版デマンド方式の路線 (新規委託路線含む) : 6.8%以上
指標の算定方法	総収入 (現金+回数券+定期券) ÷ 運行経費 (車両施設整備費含) × 100
データ出典元	事業者及び新発田市保有の実績
目標値設定の考え方	廃止代替路線の市委託路線への切り替えなどを行いながら、収支率の改善を目指します。

評価指標⑥ 公共交通空白地域の解消率	
関連目標	目標 1 周辺地域の公共交通の維持・確保
現況値 (R4)	68.0%
目標値 (R10)	79.0%以上
指標の算定方法	【バス停・鉄道駅圏域内の人口 ÷ 新発田市の総人口】 ※バス停・鉄道駅圏域内の人口は面積按分による算出
データ出典元	バス停・鉄道駅圏域内の人口 : R2 国勢調査 (250m メッシュ) 新発田市の総人口 : R2 国勢調査
目標値設定の考え方	バス路線の縮小等による、新たな公共交通空白地域が発生しないように対応するとともに、公共交通空白地域の解消に努めることが必要です。そのため、加治川地区や紫雲寺地区、佐々木地区で新発田版デマンド方式を採用した公共交通を新たに運行するなど公共交通カバー圏の拡大を図り、79.0%以上の解消率を目指します。

評価指標⑦ 数値目標設定の路線数	
関連目標	目標 3 地域で支える公共交通の構築
現況値 (R4)	1 路線
目標値 (R10)	9 路線 (市委託路線全路線)
指標の算定方法	利用者数の数値目標を設定し、達成状況に応じて増減便を図る仕組み (バストリガー方式) を導入した路線数
データ出典元	新発田市保有データ
目標値設定の考え方	公共交通を維持するためには、継続的に利用してもらうことが必要不可欠であるとともに、「地域で地域の公共交通を守る」という意識の醸成が必要です。そのため、達成状況に応じて増減便を図る仕組み (バストリガー方式) の導入を目指します。

第1章

はじめに

第2章

現状 地域および公共交通の

第3章

新発田市地域公共交通網の計画の評価

第4章

公共交通の課題

第5章

基本的な方針

第6章

計画の目標

第7章

目標達成するための施策・事業